

## 予防接種について

これまで予防接種は、天然痘の根絶をはじめ、ポリオの根絶や麻しんの排除など、多くの疾病の流行の防止に大きな成果を上げて、日本の感染症対策上とても大きな役割を果たしてきました。

感染症がまん延し、大きな被害を出す時期は過ぎ去ったため、予防接種によって獲得した免疫が、感染症の流行を抑制していることが忘れられがちとなり、予防接種法で定められている子どもを中心とした予防接種の接種率も、全国的に低下傾向にありました。

しかし、近年の新型コロナウイルスの流行により、予防接種の有効性が広く周知されることになりました。町では、主に集団接種で多くの町民の方へ実施してきました。

## 最近ニュースになった感染症:サル痘について

サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症です。一般的には発熱や発疹(ほっしん)、リンパ節のはれなどの症状がみられますが、多くの場合、2~4週間で自然に治ります。

感染経路は、感染した人や動物の皮ふの病変・体液・血液との接触が中心です。患者と長時間、近距離で対面することでの飛沫感染もありますが、新型コロナウイルス感染症と異なり、人から人への感染は容易には起こりません。

治療は対症療法で、日本国内で利用可能な薬事承認された治療薬はありません。

予防法としては、天然痘ワクチンが、ウイルスにさらされた後の発症の予防や重症化予防に有効とされています。厚生労働省はテロ対策として、十分な量のワクチンを国内に備蓄しており、患者には臨床研究で治療薬を投与できる体制も整えてると発表しています。

ちなみに、天然痘は痘そうとも呼ばれ、過去「死に至る病」として多くの死者を出しましたが、種痘の実施などにより鎮静化し、日本では1956年以降の発生はありません。種痘の接種は日本では1976年に廃止されました。1980年に世界的に天然痘の撲滅が確認されました。

## 感染対策を継続しましょう

目に見えない感染症ですが、新たな感染症が今後また起こったとしても、予防のために行うことは、基本的な感染対策の継続です。新型コロナウイルス感染症の流行では、多くの人々が感染対策を徹底することにより、流行していた他の感染症(インフルエンザなど)が減少したと言われています。

### ① マスク着用を継続しましょう



飛沫感染、空気感染の予防に効果的です。他者と身体的距離(2m以上を目安)が確保できない中で会話をする場合は、マスクの着用をお願いします。熱中症との関連などで、マスクの着用は一部見直されましたが、他者との距離が近い場面では着用を推奨します。また、2歳未満の子どもでは推奨されません。2歳以上の就学前の子どもについても、個々の発達の状況や体調などを踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めています。

### ③ 3密を回避しましょう



飛沫感染、空気感染の予防に効果的です。人と人の近距離での会話などが、最も感染のリスクが高まります。距離を取る、定期的に換気を行う、会食などは少ない人数で短時間で行うなどを心がけましょう。

これ以外にも、体調が悪い時は無理せず学校・仕事を休むなど、悪化しないための行動をとることも大切です。

●問い合わせ先 子ども未来課 町民健康係 TEL 72-3127(内線226)

### ② 手洗いを徹底しましょう



接触感染の予防に効果的です。わたしたちが感染する病原体(細菌やウイルス)の多くは、まずは、わたしたちの手に付着します。その手で鼻や口などに触れると、その病原体が体内に侵入します。また、わたしたちが病原体のついた手でさまざまなものに触れ、周りの人がそれらに触れることで、感染が広がっていきます。わたしたちの手は、様々な感染症を運んでいるのです。あなたが手を洗うことで、手についた病原体が、あなたの体内に侵入するのを防ぐだけでなく、周りの人に感染を拡げること防ぐこともできるのです。

### ④ ワクチンを接種しましょう



感染症には、ワクチンで予防できるものがたくさんあります。ワクチンを接種すると、あなたの体は、その病原体に対して免疫を獲得します。そうすると、その病原体が体内に侵入しても、病気にならない、または病気になっても症状が軽くなるようになります。

## これからの感染症対策について

新型コロナウイルスの感染が日本国内で始まったのは2020年1月。それから2年半という月日が経ちましたが、未だ収まる気配が見えません。「いつまで続くだろう」と、先の見通しがつきにくい現状では、多くの人が精神的に疲弊していきませんが、感染症という目に見えない敵は、今までもずっと身の回りにありました。

### 感染症とは

人類の歴史は感染症との闘いの歴史である、と言われます。

感染症とは、私たちを取り巻く環境に存在する病原性の微生物が、人の体内に侵入・増殖することで引き起こす疾患のことです。病原性の微生物は、大きさや構造によって、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類され、病原体と呼ばれています。

病原体が体に侵入しても、症状が現れる場合と現れない場合とがあります。感染症となるかどうかは、病原体の感染力と体の抵抗力とのバランスで決まります。また、衛生状況・栄養状態の改善も感染症を減らすことに大きく寄与しています。感染症に対抗するため、様々な国でワクチン開発が進められてきました。

### 感染経路

病原体が体の中に侵入する経路には、大きく分けて水平感染と垂直感染の2種類があります。多くの感染症は「水平感染」によって起こります。

#### 垂直感染

妊娠中、あるいは出産の際に病原体が赤ちゃんに感染することをいいます。一般的に“母子感染”といわれています。風疹やトキソプラズマ、B型肝炎などがこれに該当します。

#### 水平感染

感染源(人や物)から周囲に広がるもので、接触感染、飛沫感染、空気感染、媒介物感染の大きく4つに分類することができます。

##### 接触感染

感染者(源)に直接接触する、もしくは間接的に接触して感染する  
例:伝染性膿痂疹(とびひ)、梅毒、淋病、破傷風など



##### 飛沫感染

感染者(源)の飛沫(くしゃみ・咳・つばなど)から放出されたウイルスを吸いこんで感染する  
例:インフルエンザ、かぜ、百日咳、マイコプラズマなど



##### 空気感染

空気中を漂う微細な粒子(飛沫核)を吸い込むことにより感染する  
例:結核、麻疹(はしか)、水痘(みずぼうそう)



##### 媒介物感染

汚染された水、食品、血液、昆虫などを介して感染する  
例:食中毒(食品)、ウイルス性肝炎(血液)

